

令和3年度 理科シラバス

熊谷市立三尻中学校

1 ねらい

私たち人間はかけがえのない自然の中で生命を育んでいます。ですから、科学の方法や知識を活用して、地球の豊かな自然を子孫に残す必要があります。私たちは、観察や実験を通して自然に対する関心と知識を深め、自然を科学的に調べる能力と態度を育てなければなりません。

理科は、私たちの生活の基盤となる自然に関心を持ち、科学的に調べる能力と態度を育てながら、自然の事物・現象についての理解を深めることをねらいとしています。

2 育成したい生徒像

- ① 自分で課題を見いだし、自ら学び、考え、自然を探求する能力のある生徒
- ② 日常生活と関連付けた理解ができ、科学的な見方や考え方のできる生徒
- ③ 自然に対する総合的なものの考え方のできる生徒

3 学習力リキュラム

A/B 週	A 週																	
	前 期							後 期										
学期	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
週数																		
1年	プロ ローグ	植物の世界				身のまわりの物質				身のまわりの物質				身のまわりの物質				
		花のつくりと はなつき	動物の分類	植物の分類		身のまわりの性 質	生物と細胞	生物と細胞	生物と細胞	身のまわりの性 質	生物と細胞	生物と細胞	生物と細胞	生物と細胞	生物と細胞	生物と細胞	生物と細胞	
2年	物質の なり立ち	物質どうし の変化	元素がかか わる化学変 化	化学変化と 物質の質量	化学変化と その利用		植物の体の つくりとほな つき	動物の体の つくりとほな つき	植物の体の つくりとほな つき	生物と細胞	生物と細胞	生物と細胞	生物と細胞	生物と細胞	生物と細胞	生物と細胞	生物と細胞	
3年	水溶液ヒ イオン	酸、アルカリと イオン	化学変化と電池	生物の成長と 生殖	生物の多様 性と進化	遺伝子	火をふく 大地	火をふく 大地	火をふく 大地	電気の性質	電気の性質	電気の性質	電気の性質	電気の性質	電気の性質	電気の性質	電気の性質	
A/B 週	A 週							B 週										
学期	前 期							後 期										
月	10							11										
週数	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
	鳥のまわりの現象																	
1年	光の世界	音の世界	力の世界															
	6	5	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0		
2年	気象の観測	雲のでき方と前線	大気の動きと 日本の天気	静電気と放電														
	12	12	8	10	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	
3年	力のはたらき方	エネルギーと仕事	地球の運動と 天体の動き	月と金星の 見え方	宇宙の 広がり													
	11	10	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	

	学習内容	学習活動例
導入	① あいさつ(始業)、出席確認 ② 前時学習内容の確認	①「起立、あいさつ、着席」 ② 確認問題、確認テスト、宿題の確認など
	③ 本時の課題や目標の確認	③ 板書、説明、演示など
	④ 学習活動	④ 観察・実験・実習などの活動 教科書を読む、板書を写す
		班活動(観察、実験、話し合い)
展開	⑤ 活動の内容をまとめる	⑤ 結果や考察の発表、意見や考えの発表 問題演習、課題の深化
	まとめ	⑥ 課題や自己評価表などの提出
	⑦ あいさつ(終業)	⑦「起立、あいさつ」

5 授業の約束事

- 教室での服装は原則学生服。理科室ではジャージ。（学校生活のきまりに準じる）
- 理科室への移動は速やかに。チャイム時には着席している。
- 座席は決められた場所で。勝手に移動しない。
- 教科書やノート、ワークなどの指示された授業道具を持つてくる。
- 忘れ物をしない。（教室にあっても、持参していないければ忘れ物です。）
- ノートの記入を必ず行う。（板書された内容は必ず記入する）
- 観察や実験などの話し合い以外の私語は慎む。
(実験の注意が徹底できなくなり事故につながります)

○ 理科室の利用について

- ① 理科室では、走り回ったり、実験器具などを勝手にさわらない。
- ② 指示された時以外は、準備室に絶対に入らない。
- ③ 実験台に落書きをしない。
- ④ 薬品や実験器具は事故防止のため、ていねいに扱う。
- ⑤ ガスバーナーにいたずらしない。（非常に危険です）
- ⑥ 実験器具が壊れた場合、速やかに知らせ、指示を仰ぐ。

6 評価の観点と評価の方法について

評価の観点	評価の方法
① 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、忘れ物、私語、ふざけ等の状況 ・ノートの記入と復習の状況 ・ワーク、宿題の取り組み ・レポートの提出状況 ・授業中の発言、授業への取り組み状況
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言内容 ・実験観察レポートの表現・考察 ・実験観察中の話し合いや進め方の様子 ・定期テストの科学的な思考・判断・表現の問題
③ 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンステスト ・実験観察レポート、視聴レポートの内容 ・定期テストの知識・技能の問題 ・授業時の発言内容 ・宿題の評価点 ・単元末テストの得点

- 3つの観点をA～Cで評価し、さらに総合して5段階の評定として算出します。

第1学年「英語科」シラバス

*使用する教科書 (出版社) Here We Go! (光村図書)

[英語科の目標]

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図るうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

[観点別学習状況の評価と評定について]

○観点別学習状況の評価

ノンフォーマンステスト、小テスト、提出物、授業での取組状況などを考慮して、次の3つの観点についてそれぞれ3段階（A・B・C）で評価する。

[主体的に学習に取り組む態度]

- ・教師や友だちの発言、発表を聞き、自分の考え方や思いを話そととする。
- ・コミュニケーションの基礎を養うため、ノートに書く活動に積極的に取り組み、期日を守って提出できる。
- ・英語の特性を理解し、目あてを理解して授業に参加している。

- ・聞き手、話し手、読み手、書き手に配慮しながら、身についた言葉や表現を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
- ・自らの学習状況を把握し、学習の進め方を試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとする。

[思考・判断・表現]

- ・初歩的な英語を用いて、自分の思いや考えを表現できる。
- ・英語らしい発音で音読できる。
- ・会話や物語の内容について、適切に自分の言葉で説明できる。
- ・初歩的な英語の情報を正しく聞いたり読みたりして、内容を理解することができます。
- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題を理解したり、これらを活用して表現したり伝える合つたりすることができる。

など

[知識・技能]

- ・フォニックスの理論にもとづいて、正確に英語を発話できる。
- ・外国語の音韻、表現、文法7、「言語の働き」を理解している。
- ・知識を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことにおいて活用できる。

○評定

上記3観点の観点別学習状況の評価をもとにして、5段階（5・4・3・2・1）で評定する。

学期・月	学習内容
前期	<p>ラウンド1 〔文字を用いせず、音声を聞きながらイラストを見る。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語特有の発音 ・英語の語順
後期	<p>ラウンド2 〔音声と文字を一致させ、教科書の内容を理解する。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語特有の発音 ・文法整理 ・まとまった内容の自己紹介
前期	<p>ラウンド3 〔教科書の英文を音読し、書き写す。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語特有の発音 ・文法整理
後期	<p>ラウンド4 〔教科書の見えない部分を考えながら読みたり書いたりする（穴あき音読・筆写）。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語特有の発音 ・音読テスト ・文法整理
後期	<p>ラウンド5 〔教科書のイラストや写真を見せながら、自分の言葉で内容を話したり書いたりして、内容を説明する。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語特有の発音 ・身近な人の紹介 ・英語でのインタビュー ・短いスピーチ

※ラウンドごとに、評定する観点は異なります。

第2学年「英語科」シラバス

*使用する教科書 (出版社) Here We Go! 2 (光村図書)

【英語科の目標】

外国语の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。

【観点別学習状況の評価と評定について】

○観点別学習状況の評価

ノーフォーマンステスト、小テスト、提出物、授業での取組状況などを考慮して、次の3つの観点についてそれぞれ3段階（A・B・C）で評価する。

【知識・技能】

- 英語の概要を読み取ることができる。
- 身近な事柄について学習した文法事項を使い、話す技能を身につけている。
- 英語の語順や文法事項を正しく身につけることができる。

【思考・判断・表現】

- 初步的な英語を用いて、自分の思いや考えを表現できる。
- 会話や物語の内容について、適切に自分の言葉で説明できる。
- 初步的な英語の情報を正しく聞いたり読みだりして、内容を理解することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 教師や友だちの発言、発表を聞き、自分の考えや思いを話そっとする。
- コミュニケーションの素地をつくるため、ノートに書く活動に積極的に取り組み、期日を守って提出できる。
- 英語の特性を理解し、目あてを理解して授業に参加している。
- 身につけた言葉や表現を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。など

○評定

上記3観点の観点別学習状況の評価をもとにして、5段階（5・4・3・2・1）で評定する。
※ラウンドごとに、評価する観点は異なります。

学期・月	ラウンド1 〔音声と文字を一致させ、教科書の内容を理解する。〕	学習内容
前期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・英語特有の発音 ・英語の語順 ・電話、アナウンス ・文法整理
前期	5	<ul style="list-style-type: none"> ・文法整理
後期	6	<ul style="list-style-type: none"> ・英語特有の発音 ・レストラン、道案内 ・文法整理
後期	7	<ul style="list-style-type: none"> ・文法整理
後期	8	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の見えない部分をしながら読みだり書いたりする（点書き音読・筆写）。」
後期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・英語特有の発音 ・音読テスト
後期	10	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントのお知らせ ・文法整理
後期	11	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書のイラストや写真を見せながら、自分の言葉で内容を話したり書いたりして、内容を説明する。」
後期	12	<ul style="list-style-type: none"> ・観光案内、音声ガイド ・文法整理
後期	1	<ul style="list-style-type: none"> ・文法整理
後期	2	<ul style="list-style-type: none"> ・3年ラウンド（ラウンド1） 〔音声と文字を一致させ、教科書の内容を理解する。〕 ・英語特有の発音 ・英語の語順
後期	3	

第3学年「英語科」シラバス

【英語科の目標】

外國語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を動かせ、外國語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

【観点別学習状況の評価と評定について】

パフォーマンステスト、小テスト、提出物、授業での取組状況などを考慮して、次の3つの観点についてそれぞれ3段階（A・B・C）で評価する。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

- ・教師や友だちの発言、発表を聞き、自分の考えや思いを話そうとする。
- ・コミュニケーションの基礎を差うため、ノートに書く活動に積極的に取り組み、期日を守って提出できる。
- ・英語の特性を理解し、目あてを理解して授業に参加している。

- ・聞き手、話し手、読み手、書き手に配慮しながら、身につけた言葉や表現を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
- ・自らの学習状況を把握し、学習の進め方を試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとする。

〔思考・判断・表現〕

- ・初步的な英語を用いて、自分の思いや考えを表現できる。
- ・英語らしい発音で音読できる。
- ・会話や物語の内容について、適切に自分の言葉で説明できる。
- ・初步的な英語の情報を正しく聞いたり読みたりして、内容を理解することができる。
- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題を理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができます。

〔知識・技能〕

- ・フォニックスの理論にもとづいて、正確に英語を発話できる。
- ・外國語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きを理解している。
- ・知識を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことにおいて活用できる。

など

*使用する教科書 (出版社) Here We Go! (光村図書)

学期・月	学習内容
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生の内容の文法整理 ・県学力調査対策
4	<ul style="list-style-type: none"> ラウンド1 〔文字を用いず、音声を聞きながらイラストや写真を見て、教科書の内容の流れを理解する〕 ・文法整理・語順学習
5	<ul style="list-style-type: none"> ・現在完了形・現在完了進行形 ラウンド2 〔音声と文字を一致させ、教科書の内容を理解する〕 ラウンド3 〔教科書の英文を音読し、書き写す〕
6	<ul style="list-style-type: none"> ・文法整理・語順学習 ラウンド4 〔教科書の見えない部分を考えながら読みだり書いたりする(穴あき音読・筆写)。〕 ・文法整理・語順学習
7	<ul style="list-style-type: none"> ・音読テスト ・中3テスト対策
8	<ul style="list-style-type: none"> ラウンド5 〔教科書のイラストや写真を見せながら、自分の言葉で内容を話したり書いたりして、内容を説明する〕
9	<ul style="list-style-type: none"> ・文法整理・語順学習
10	<ul style="list-style-type: none"> ・文法整理・語順学習 ・ストーリーテリングテスト ・GTEC
11	<ul style="list-style-type: none"> ・中3テスト対策 ・長文読解
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの復習 12 ・私立・公立入試対策
1	<ul style="list-style-type: none"> ・英語スピーチ
2	
3	

※ラウンドごとに、評価する観点は異なります。

○評定

上記3観点の観点別学習状況の評価をもとにして、5段階（5・4・3・2・1）で評定する。

中学校技術・家庭科（技術分野）シラバス

主としてQ形式の枠の中は、生徒の皆さん向け、☆の枠の中は、保護者の皆さん向けの内容になっています。

技術・家庭科（技術分野）ではこんな勉強をします！

Q1 なぜ、技術・家庭科（技術分野）を勉強するのですか？

科学技術や情報化の進歩に伴って、わたしたちの生活は大きく変化しています。これらの変化に主体的に対応できるためには、自立した生活、自分なりの工夫を生かした生活、学習した事柄を進んで活用する生活を送ることが必要です。そのため技術・家庭科（技術分野）では、ものづくりなどの実践的・体験的な学習することで、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境との関わりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力や態度を育てます。

Q2 どのように学習を進めますか？

どんな準備がいりますか？

1・2年生の場合

毎週1回、2時間続きの授業で、前期は2年生が技術を（1年生前期は家庭）、後期は1年生が技術（2年生後期は家庭）を学習します。技術を担当するのは茅根、家庭を担当するのは関田です。

3年生の場合

通年で技術と家庭科を各週で行います。

☆ 3年生の技術の授業は、主にパソコン室での情報に関する学習を行います。

☆ 情報の選び方や伝え方、パソコンの操作、インターネットトラブルへの対処法など、情報との関わり方を身につける学習を行います。

☆ 学習指導要領及びその解説書には、次のように定められています。

【技術・家庭科の目標】

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を動かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

【技術・家庭科の授業で目指すこと】

○生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。

○生活や社会の中から技術に関する問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。

○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う

☆ 技術・家庭科の学習内容です。

学習内容は「技術分野」及び「家庭分野」、の2つの分野で構成されています。

技術分野は、A「材料と加工」、B「エネルギー変換」、C「生物育成」、D「情報」の4つの内容で構成されています。

1学年

※使用する教科書は『開隆堂』

学期月	題材名（単元名）
10月	ガイダンス（4時間） 「技術」とは? 技術分野では何を学習するの?
11月	I ものづくりの加工と進め方（1時間） ① 製品の加工と技術の進歩 ② ものづくりの進め方
前半	II 材料（4時間） ① 様々な材料 ② 材料の特徴 ③ 材料と環境とのかかわり
後半	III 設計（8時間） ① 設計の進め方 ② 使用目的と製作品の決定 ③ 機能、構造、材料を考える ④ 加工方法、接合と仕上げ方法を考える
1月	IV 製作（15時間） ① 製作の進め方 ② 部品表と工程表 ③ けがき、切断、切削、穴あけ ④ 部品の検査と修正 ⑤ 組み立て ⑥ 表面と角の仕上げ
2月	【評価方法】 テスト、実技テスト、ノートの提出、作品、授業での様子など。
3月	V 材料と加工に関する技術と私たち (3時間) ① 社会・環境との関わり まとめ

☆ 技術・家庭科の評価の観点は、次のようになります。

【技術・家庭科の評価】

① 知識・技能

生活や社会で利用されている技術について理解していると共に、それらに関わる技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。

前半

1月

I ものづくりの加工と進め方（1時間）

10月

ガイダンス（4時間）
「技術」とは?
技術分野では何を学習するの?

II 材料（4時間）

① 様々な材料
② 材料の特徴
③ 材料と環境とのかかわり

III 設計（8時間）

① 設計の進め方
② 使用目的と製作品の決定
③ 機能、構造、材料を考える
④ 加工方法、接合と仕上げ方法を考える

IV 製作（15時間）

① 製作の進め方
② 部品表と工程表
③ けがき、切断、切削、穴あけ
④ 部品の検査と修正
⑤ 組み立て
⑥ 表面と角の仕上げ

V 材料と加工に関する技術と私たち
(3時間)

① 社会・環境との関わり
まとめ

2学年

※使用する教科書は『開拓堂』

学期月	題材名（単元名）
4月	Iわたしたちの生活とエネルギー変換 (4時間)
5月	① エネルギーとエネルギー変換 ② エネルギー資源の種類 ③ エネルギー変換と効率 IIエネルギーの変換と利用 (3時間) ① 電気エネルギー ② 電気機器への利用
6月	III動力伝達の機構とその利用 (3時間) ① 動力伝達のしくみ ② 運動を変化させる仕組み IV機器の保全と保守点検 (4時間) ① 電気機器の構造 ② 電気機器の安全な利用、保守 点検 ③ 機械の保守点検と整備 ④ 機械の安全な利用と事故防止
7月	Vエネルギー変換を活用した製作 (1時間) ① 構想と設計 ② 工具の使い方 ③ 評価をしよう
9月	Iわたしたちの生活と生物育成 (3時間) ① 生物育成とは ② 作物などの特性と生物 ③ 育成技術
10月	II作物の栽培 (7時間) ① 栽培ごよみ ② 環境要因 ③ 生物の規則性と技術 ④ 土作り、肥料 ⑤ ミニトマト、育苗と植え付け ⑥ 定植後の管理 ⑦ 収穫の方針、保存、管理

季節の関係で生物育成も並行して学習

☆ 技術・家庭科の評価の観点は、次のようになっています。

【技術・家庭科の評価】

① 知識・技能

生活や社会で利用されている技術について理解していると共に、それらに関わる技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。

② 思考・判断・表現

生活や社会の中から技術に関する問題を見いだしで課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身につけている。

③ 主体的に学習に取り組む態度

より良い生活の実現や持続可能な構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。
★持ち物は、教科書・ノートを用意してください。

【評価方法】

テスト、実技テスト、ノートの提出、作品、授業での様子など。

学期月

題材名（単元名）

表計算で

- I 情報とわたしたちの生活
(1時間)
① 情報社会の技術を見てみ
よう
② 情報の技術とその役割

生活に便
利な表を
設計しよ
う

前期

- II コンピュータと情報処理
(1時間)
① コンピュータの構成
② 情報を処理する仕組み
③ ディジタル化の方法
④ ディジタル化した情報の
量と保存

① 知識・技能
② 生活や社会で利用されている技術について理解していると共に、それらに関わる技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。

4月・5月・6月

- III 情報通信ネットワークの利
用(1時間)
① ネットワークの構成
② ネットワークでできるこ
と情報を伝えるしくみ

パワーポ
イントで
修学旅行
アルバム
を作ろう

- IV ネットワークと情報セキュ
リティ(2時間)

① ネットワークの安全性
② 情報セキュリティ
V ディジタル作品の設計と
制作(5時間)

② 思考・判断・表現
③ 主体的に学習に取り組む態度
より良い生活の実現や持続可能な構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。

★3学年は技術と家庭科を各週毎に行います。

【評価方法】

テスト、ノートの提出、作品、授業での様子など。

7月・9月

VI 情報モラルと知的財産

- (2時間)
① 利用するときのモラル
② 発信するときのモラル
③ 人権や個人情報の保護
④ 知的財産の保護

簡単なプ
ログラム
を作ろう

後期

VII プログラムによる制御・計
測(2時間)

- ① 生活の中にある制御
② 計測・制御システム
③ 処理の手順とプログラム
④ プログラムによる制御

④ プログラムによる制御
⑤ 3年間の学習のまとめ(1時間)

☆ 技術・家庭科の評価の観点は、次のように

になっています。

【技術・家庭科の評価】

① 知識・技能

生活や社会で利用されている技術について理解していると共に、それらに関わる技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。

② 思考・判断・表現

生活や社会の中から技術に関する問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実験を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身につけている。

③ 主体的に学習に取り組む態度

より良い生活の実現や持続可能な構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。

第1学年 技術・家庭科(家庭分野) シラバス

- 技術・家庭科の基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深め、家庭分野での目標を達成する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する知識と技術をもつて生活をよりよくしようとするとする能力と態度を育てる。
- 家庭分野などに居住する実験的・体験的な学習活動を通して、家庭の機能について理解を深め、これから生きていく上で必要な衣食住に関する知識と課題をもつと自立」「身近な消費生活と環境」
- 家庭分野の展望して、家庭分野の目標を達成する実験的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する知識と技術をもつて生活をよりよくしようとするとする能力と態度を育てる。
- 家庭分野の目標を達成する実験的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する知識と技術をもつて生活をよりよくしようとするとする能力と態度を育てる。

月	題材名	学習内容(時数)
4	ガイダンス	家庭科の学習 ガイダンス(1)
5	めざせ！有能シェフ	1, 健康と食生活(1) ①毎日の食事について考えてみよう ②栄養素のはたらきについて知ろう ③いろいろな食品の栄養素を調べよう ④中学生に必要な栄養の特徴を知ろう 2, う食品の選択と調理(1) ①う食品の選択と調理方について考えよう ②食品の表示を知ろう ③食品の表示を調べよう ④調理の計画をしよう ⑤肉を調理しよう 3, 食品を選び方を考えよう ⑥魚を調理しよう
6		3, ①商品の選択と調理しよう ②自分の生活と選択 ③魚を調理しよう
7		3, ①商品の選択と調理しよう ②自分の生活と選択 ③魚を調理しよう
9	暮らし安心消費生活	1, ①商品の選択と調理しよう ②自分の生活と選択 ③魚を調理しよう 2, ①商品の選択と調理しよう ②自分の生活と選択 ③魚を調理しよう 3, ①商品の選択と調理しよう ②自分の生活と選択 ③魚を調理しよう
10		3, ①商品の選択と調理しよう ②自分の生活と選択 ③魚を調理しよう

5. 評価と評定

(1) 家庭分野の評価の観点・趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家族・家庭の基礎的な機能生活について理解を深め、家庭、衣食住について、それらに理解して、それらに係る技能を身につけている。	これから的生活を展望し、生活問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察し、論理的に表現する力を身につけている。	家族や地域の人々と協働し、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って、実践し、改善し、創造している。

(2) 評価方法

授業の様子(発言・私語・遅刻・忘れ物等)

・テスト(期末テスト、実技テスト等)

・ノート、レポート等の提出物等

(3) 評定

(1) の3観点の観点別学習状況の評価を基にして、5段階で評定を表す。

技術・家庭科(家庭分野)からのお願い

・家庭でお手伝いをさせてください。(宿題が出ることがあります。はじめからうまく出来ません。努力を誓めて励ましてください。

第2学年

技術・家庭科(家庭分野) シラバス

シラバス

- 技術・家庭科の目標

生活に必要な知識と技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。
- 家庭分野などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する知識と技術をもつて生活をよりよくする能力と態度を育てる。
- 生活を展望して、家庭の機能について理解を深め、これから生활する家庭分野の領域:「衣生活・住生活と自立」「食生活と自立」
- 家庭分野(後期家庭分野)

月	題材名	学習内容 (時数)
10	発揮しよう 個性	1 日常着の活用 (2) ①日常生活着の暮らし手入れ (1) ②衣服の計画的な活用と選択 (2) ③私たちの衣料の材料 (1) ④環境生活 (1) ⑤豊かな地域行事 (1) ⑥地域の食文化 (4) ⑦受け継がれる食文化 (4)
11		2 衣服の手入れと補修をしよう (基礎縫い) ①日常生活に配慮した衣料 (1) ②衣服の手入れと補修 (1) ③私たちの衣料の材料 (1) ④環境生活 (1) ⑤豊かな地域行事 (1) ⑥地域の食文化 (4) ⑦受け継がれる食文化 (4)
12	伝えよう 郷土の味	3 郷土の味 (8) ①地域行事 (1) ②地域の食文化 (4) ③地域行事 (1) ④地域の食文化 (4)
1	追求しよう 生活	4 追求しよう (8) ①地域行事 (1) ②地域の食文化 (4) ③地域行事 (1) ④地域の食文化 (4)
2	追求しよう 生活	5 追求しよう (8) ①地域行事 (1) ②地域の食文化 (4) ③地域行事 (1) ④地域の食文化 (4)
3	エコ人になろう エコライ	6 エコ人になろう (8) ①安全対策 (2) ②災害への備え (2) ③住まいと音 (2) ④室内減量 (2) ⑤空気調節 (2) ⑥ゴミ削減 (2) ⑦エネルギー削減 (2) ⑧環境への影響 (2)
		7 環境への影響 (2)

5. 評価と評定

(1) 家庭分野の評価の観点・趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家族・家庭の基礎的な機能について理解を深め、家庭、に自由食住、理解していることとも身につけていている。	これから的生活を展望し、家庭や地域の人々と協働して、取り組んだりして、改善したりして、実践したこととして課題を解決する力を持つ	家族や地域の人々と協働して、取り組んだりして、改善したりして、実践しようと工夫して、実践している。

(2) 評価方法

- 授業の様子 (発言・私語・遅刻・忘れ物 等)

(3) 評定

- (1) の3観点の観点別学習状況の評価を基にして、5段階で評定を表す。

技術・家庭科(家庭分野)からのお願い

・家庭でお手伝いをさせてください。
・家庭で実践する宿題がでることがあります。はじめから上手くはできません。努力を誓めて励ましてください。

第3学年 技術・家庭科(家庭分野) シラバス

- 1、技術・家庭科の目標
 - 生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深め、家庭分野で生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。
- 2、家庭分野の目標
 - 衣食住などに知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからする生活を展望して、課題をもつて生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。
- 3、家庭分野の領域：「家族・家庭と子どもの成長」「身近な消費生活と自立」
- 4、学習内容
 - (隔週で技術分野、家庭分野を行う。)

月	題材名	学習内容(時数)
4	育てよう、次の世代	1わたしの成長と家族 (1) ①家族の役割 ②わたしたちと家族・家庭と地域 (1.5) ①家庭の役割 ②地域の役割 ③家庭生活と地域との関わり
5		6 応援します！ 幼児の笑顔 1 幼児の生活 (1.0) ①幼児の体と心の発達 ②幼児の遊びとおもちゃ ③幼児の食事 ④幼児の生活習慣 2 幼稚園に行ってみよう (2) . . . ※コロナの状況によっては中止になることもあります
6		3 交流体験をまとめよう (1) 1 持続可能な社会に向けて (1) 2 自分の意見を発信しよう (1)
7		
8		
9		
10		
11		
12	持続可能な社会に向けて	
1		
2		

5、評価と評定

(1) 家庭分野の評価の観点・趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家族・家庭の基礎的な機能生活について必要な知識を深め、家庭、衣食について、それらに係る技能を身につけていている。	これから的生活を展望し、生活課題を設定し、解決策を構想し、実践することを論理的に表現する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に取り組んだりして、取り組んだりして、実践しようと改めて工夫して課題を解決する力をつけている。

(2) 評価方法

- ・授業の様子(発言・私語・遅刻・忘れ物 等)

(3) 評定

(1) の3観点の観点別学習状況の評価を基にして、5段階で評定を表す。

技術・家庭科(家庭分野)からのお願い

・家庭でお手伝いをさせてください。
 ・学習したこと家庭で実践する宿題がでることがあります。はじめから上手くはできません。努力を誓めて励ましてください。